



川内小学校だより

ゆずり葉

第6号

令和元年7月16日
桐生市立川内小学校発行



1学期、お世話になりました。今週末から夏休みに入ります。

1学期の間、川内小の子どもたちには大きな事故もなく、どの学年も行事や活動を順調にこなしながら過ごすことができました。多くの保護者の皆様に、そして多くの地域の方々にお世話になりながらの日々でしたが、日頃から学校を見守り支えていただいていることに大変感謝しております。



6月から7月にかけてはムシで暑い日もありましたが、「肌寒くてまだ長袖が手放せない」「掛け布団が必要」といった日が続くなど、寒暖の変化に対応するのが大変でした。雨模様の日が続く、水泳学習も予定通りにいきませんでした。ところがこうした天候の中でも、嬉しいことに、子どもたちの欠席がととも少ない状況が続いていました。毎日元気に学校に来ることは、「身体の調子がよい」ことは大前提ですが、このこと以上に「心の安定」も非常に関係してきます。「学校が楽しい」と感じられるような学校運営、そして温かで居心地のよいクラスの雰囲気づくりに、いっそう努めてまいります。

保護者の皆様には、夏休み以降も引き続き協力をお願いすることが出てくるのが予想されますが、川内小が安心・安全に、そして活気ある学校であり続けられるようにご支援よろしくお願ひします。

「七夕集会」

7/5(金)の朝、「七夕集会」を行いました。お子さんの書いた願い事を知っていますか？聞いても教えてくれないかもしれませんね。当日、体育館の壁に掲示されていた1人1人の願い事を読んだところ、自分の将来にかかわることが圧倒的に多かったようです。そして、将来の夢や希望に親の仕事と同じものを記載している子どもがいました。子どもなりに親の後ろ姿を見て、そこから感謝や尊敬の思いを抱いているのでしょうか。比較的達成できそうな願いもあれば、かなり高いハードルを掲げている子どももいました。そして、自分のことでなく家族や身近な人の幸せを願う内容もありました。



保護者や教職員のみんなに共通している願いは、もちろん「川内小の子どもたちが、大きな病気もせず事故に遭うことなく、毎日を明るい笑顔で健康に過ごしてほしい」ですね。

夏休みをどのように過ごすか。生活のリズムを整えながら充実した日々に！



7/20~8/25の間、夏季休業となります。長いようでもボーっとしているとアツという間に過ぎ去ってしまうのが夏休みです。「〇〇を頑張って続けよう！」と長期休みだからこそできるものを決めて、目標をもって過ごせばすばらしいことと思います。反対に生活習慣が乱れて、夜遅くまでゲームやSNS等にはまり、結果、朝寝坊の日が続いてしまうなんていうことになると2学期のスタートに向けて心配です。さらに、食事を抜いたり、食事の時間が不規則になったり、体を動かさず運動不足になったりするなど、健康を害してしまうことも避けたいものです。生活のリズムを整え、心身共に健康な日々を送れる夏休みとなるようご配慮ください。

レベッカ＝ロビンズ（ニックネームは「ベッキー」）先生、長い間お世話になりました。



川内小・中学校で長くお世話になったベッキー先生がこの1学期で勤務が終了となります。子どもたちもすっかり馴染んでいたところだけに大変残念です。この後はオーストラリアで過ごされるそうです。

ベッキー先生は、日本語が達者なだけでなく平仮名や漢字にもかなり堪能です。機会があれば、また日本に戻り、桐生や川内にかかわってくれると嬉しいですね。下はご本人からの言葉です。

川内小学校の皆さんへ

五年間、心の底から、ありがとうございました。みんなと一緒に英語の勉強をしたり、給食を食べたり、毎日遊んだり、話したり、笑ったりしたのは、私の大切な思い出になります。これから、私はオーストラリアに引っ越し、新しい冒険が始まります。新しい仕事、新しい友達、新しいことばかりで緊張しますが頑張ります。みんなも英語の勉強を頑張ってくださいね！いつかまた会いましょう。

See you !

ベッキーより

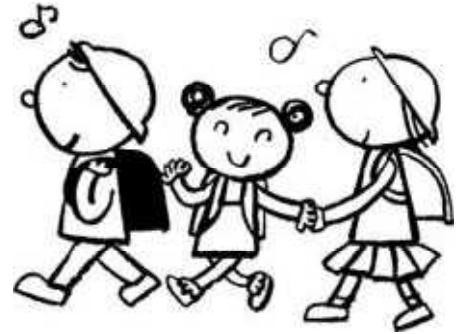
原則、“徒歩で登校”できるように、子どもへの励ましと皆様のご協力をお願いします。

随分前の話ですが、他県の小学校で子どもを車で送ってきた保護者が学校駐車場において、「登校児童を車で轢いて死亡させてしまった」という悲しい事故がありました。いくつかの要因が重なった不運な事故でした。そこまでは至らなくても、学校の出入り口や駐車場内での大小様々な事故の報告は、たくさん上がってきています。決してあってはならないことですが、改めて本校の現状を見つめると決して他人事ではありません。

川内小の西門出入り口に、朝、旗振り当番の方がいますが、

「学校に出入りする保護者の車が大変多く、子どもたちと接触するのではないかと非常に心配です」という相談を受けました。

間もなく1学期は終了となりますが、2学期以降についても、健康状況や身体面から配慮を要する場面などは仕方ないと考えますが、そうでない場合は、駐車場の出入り口や場内の危険を減らすためにも、車で学校まで送ってくることをひかえるようにご協力・ご配慮をお願いします。



【校長室でのひとり言 ～1学期を振り返って～】

校内を見渡すと「〇〇先生の持ち味が発揮されている」と感じる場面が多々ある。教員は様々な専門性や人間性をもち、個々に違う考え方をする人間が組織として動く。足並みをそろえる場面もあれば、個人の特性を生かす場面もある。教員を長年勤める中、家庭訪問や懇談会で「前の担任は△△をしてくれた」と言われることがあった。管理職になってからも「前の教頭先生は…、前の校長先生は▲▲をしてくれた」という言葉をよく耳にした。言われた側は、案外戸惑う。似た状況では、私以外の教員も同じであろう。前の先生が力を入れていたことに加え、さらに自分の持ち味が発揮できればすばらしいが、なかなかそうはいかない。力の入れどころが違うからである。

多くの教員と接する中、1人1人の持ち味は全く違うことに気付く。担任として必要な指導は、ひと通り行いながらも、「人間関係づくり」、「人権意識や感覚を高める」、「表現力を伸ばす」、「安心・安全への働きかけ」、「家庭学習の充実」、「家庭との連携」（…その他…）など、力の入れどころは教員によって随分と違う。1人1人の担任がどこで持ち味を発揮し、何を核としながら子どもの成長に働きかけているのか改めて見つめると、そこから学べるが多々ある。（川内小の教職員のそれぞれが前向きに取り組む姿からも多くが学べる。日々勉強である！）

何はともあれ、子どもたちは明るく元気に過ごし、1学期が無事に終わりそうだ。何より嬉しいことである。